

令和 8 年 第 3 回 小 林 市 議 会 定 例 会 （ 3 月 議 会 ）
一 般 質 問 通 告 書

質問者一覧

質問日	開始時間 (予定)	発言順番	議員名	ページ
2月27日(金)	午前	①	永 野 雅 己	P 2
		②	小 川 真	P 5
	午後	③	堀 研 二 郎	P 6
		④	橋 本 律 子	P 8
3月2日(月)	午前	⑤	能 勢 誠	P 11
		⑥	原 勝 信	P 15
	午後	⑦	金 松 勲	P 18
		⑧	大 迫 み どり	P 19
3月3日(火)	午前	⑨	吉 藤 洋 子	P 20
		⑩	前 田 隆 博	P 23
	午後	⑪	貴 嶋 憲 太 郎	P 25

質問事項	質問要旨	質問の相手
<p>質問事項 1 畜産業の持続的発展に向けた取組について</p>	<p>本市の畜産業は、和牛生産・肥育を中心に、農業産出額の大きな割合を占める基幹産業であり、地域経済及び雇用を支える重要な役割を担っております。一方で、担い手の高齢化や離農の進行、子牛価格や飼料価格の変動、さらには家畜伝染病への対応など、経営環境は年々厳しさを増しております。このため、本市の畜産業を将来にわたり持続可能な産業として維持・発展させていくためには、生産基盤の現状を的確に把握するとともに、経営安定対策、防疫体制の強化などを総合的に進めていく必要があります。</p> <p>そこで、和牛生産農家の現状と課題、価格動向への対応、防疫体制の在り方などについて、市の取組状況と今後の方向性を伺います。</p>	市長
<p>（1）和牛生産農家の現状と今後</p>	<p>本市における和牛生産農家について、戸数、飼養頭数、経営規模の推移を見ると、高齢化や後継者不足により廃業や規模縮小が進み、母牛頭数の減少が指摘されています。こうした状況を踏まえ、市として現在の生産基盤の現状をどのように分析しているのか伺います。</p> <p>また、今後、母牛頭数の維持・回復を含め、和牛生産をどのように維持・発展させていく考えか、市の見解を伺います。</p> <p>さらに、このまま推移した場合、将来的に生産基盤の縮小が避けられないと考えられますが、そのリスクに対して、構造的な対策を講じる考えはないのか伺います。</p>	
<p>（2）子牛価格と牛肉消費動向が肥育経営に及ぼす影響</p>	<p>近年の子牛価格の動向と、全国的な牛肉消費量の推移について、市はどのような関係性があると分析しているのか伺います。</p> <p>また、消費動向の変化が子牛価格や枝肉相場に影響を及ぼす中で、本市の肥育農家の経営にどのような影響が生じていると認識しているのか見解を伺います。あわせて、現在、市として講じて</p>	

質問事項	質問要旨	質問の相手
<p>(3) 家畜防疫体制について</p>	<p>いる支援策や対策の内容について伺います。</p> <p>さらに、今後の牛肉消費の動向や価格環境の変化により、肥育農家の経営継続が一層困難となることも想定されますが、そうした事態に備え、短期的・緊急的な支援策を検討する考えはないのか見解を伺います。</p> <p>家畜・家禽<small>がまん</small>に対する本市の防疫体制の現状と、今後の強化策について伺います。</p> <p>農場間の感染拡大を防ぐため、発生地域の農場を訪問した後はすぐに別の農場へ移動せず、一定期間を空ける「ダウンタイム」の考え方についてどのように認識しているのか伺います。</p>	
<p>質問事項2 農業を支える基盤と担い手対策について</p> <p>(1) 農地集約化基盤整備事業とスマート農業について</p>	<p>農業を持続的に発展させていくためには、農地の有効活用や生産性の向上に加え、将来を担う人材の確保が不可欠です。</p> <p>しかしながら、農業従事者の高齢化や担い手不足、離農の進行により、生産基盤の弱体化が懸念されています。こうした状況を踏まえ、農地集約化の推進やスマート農業の導入支援、中山間地域対策の充実、さらには多様な担い手を確保する取組を一体的に進めていくことが求められます。また、農業所得の向上を図る観点から、ふるさと納税返礼品としての農産物の活用も重要な施策の一つであります。</p> <p>そこで、本市農業を支える基盤整備の取組状況と担い手対策の現状について整理するとともに、今後の施策の方向性について伺います。</p> <p>農地が分散していることが生産効率を低下させているとの指摘がありますが、農地集約化基盤整備事業の現在の進捗状況と、今後の進め方について市の考えを伺います。</p> <p>また、スマート農業の導入状況とそれを農地集約化や作業効率の向上につなげる取組について、市はどのように進めているのか伺います。</p>	<p>市長</p>

質問事項	質問要旨	質問の相手
<p>(2) 農地集約化における農業委員会の役割</p>	<p>農地集約化において農業委員会に期待する役割と現在の取組体制について伺います。</p> <p>農地集約化に伴う農業委員会の業務内容の整理状況と業務負担に対する認識について伺います。</p> <p>農業委員会が把握する耕作者情報・地図協議・荒廃農地情報が担い手への農地集積にどのように活用されているか伺います。</p> <p>また、農業振興課と農業委員会が連携し、今後どのような将来像を描いて農地集約化を進めていくのか伺います。</p>	
<p>(3) 中山間地域等直接支払交付金事業及び多面的機能支払交付金事業について</p>	<p>中山間地域等直接支払交付金事業及び多面的機能支払交付金事業の実施状況とその効果について、どのように評価しているのか伺います。</p> <p>また、不利な条件にある農地での農業継続を支え農村の共同活動による環境保全・農地機能維持を行っているが、どこの地区でも高齢化が進んでいる現状で、今後の進め方について伺います。</p>	
<p>(4) 離農と担い手問題</p>	<p>離農の実態と主な要因をどのように把握し、離農の進行と担い手不足の深刻化をどのような課題として認識しているのか伺います。</p> <p>また、新規就農者や後継者への経営面・労働面の支援について伺います。</p> <p>さらに、農業を「職業として選ばれる産業」とするため、所得向上や働き方改善に向けた施策をどのように考えているか伺います。</p>	
<p>(5) ふるさと納税返礼品（農産物）</p>	<p>ふるさと納税返礼品としての農産物の供給状況と今後の拡充に向けた方針について伺います。</p> <p>また、加工品化やブランド化の現状と今後について伺います。</p>	

質問事項	質問要旨	質問の相手
質問事項1 人口減少について	小林市民の転出について、社会減が人口構造に与えている影響をどのように分析し、どのように対応しているのか伺う。	市長
(1) 小林市の人口減少(自然減・社会減)の実態について	小林市の人口減少の分析をする。人口減少が「加速」する要因の共通理解を図り、都城市の手厚い移住支援制度による影響、2023年から2024年にかけての転入・転出の状況を問う。	
(2) 若年層の社会減の傾向について	若年層が転出している実態と状況をどう分析し、また自治体としての危機感、社会減への対策、施策をどのように行っているのか問う。	
(3) てななど小林総合戦略について	第3期てななど小林総合戦略の実施に向け、第2期総合戦略の主な施策の振り返りと、過去のKPIを基に転入状況の確認を行い、市の移住施策である移住等促進支援事業、空き家対策事業及び中心市街地創業支援事業の課題等を問う。	
(4) 転入者に寄り添った施策について	転入を施策として捉え、移住定住支援を真剣に取り組むのであれば、転入者に寄り添ったより丁寧な施策や案内が必要と考える。特に小林市はごみ分別が転入者の初期負担になっている実態がある。市の分析、検証が行われているか。ごみ分別へのスタート支援などを問う。	
質問事項2 地方創生の推進について	当会派、立新会は内閣府を訪問し、地方創生の推進について現状の課題等について説明を受けた。それらを踏まえ、以下について伺う。	市長
(1) 国との連携について	内閣府によると、東京一極集中、過度な転入超過、地方部と都市部の賃金格差、同時に地方部での男女の賃金格差を問題視していた。国の施策との連携は、どのような形で図られているのか問う。	
(2) 取り組むべき3つの柱について	令和7年12月閣議決定された「地方創生に関する総合戦略」では政策目標を①強い経済、②豊かな生活環境、③選ばれる地方の3つを掲げている。市は、国の施策をどのように共有されているのか問う。	

質問事項	質問要旨	質問の相手
<p>質問事項1</p> <p>市道における緊急車両の通行について</p>	<p>市内道路において段差等により、救急車が減速して通行しなければならない箇所があり、救急搬送業務に支障を来している状況があると聞いている。</p> <p>そういった観点からの道路整備の在り方等について、市としてどのように考え西諸広域行政事務組合と連携していくかを伺う。</p>	市長
<p>質問事項2</p> <p>人材バンクの構築について</p> <p>(1) スポーツ協会における指導者人材バンクの状況について</p> <p>(2) 指導者人材バンクの活用方法について</p>	<p>地域や各分野における担い手・指導者確保が課題となっている中、今構築を進められている指導者人材バンクの進捗状況と今後の展望・展開を伺う。また、様々な分野において、今後、人材不足が懸念されるが、市として、スポーツ分野にとどまらず各分野での人材バンクを構築していく考えはないか伺う。</p> <p>指導者人材バンクの概要と運用開始時期、周知方法など具体的な進捗状況を伺う。</p> <p>スポーツクラブやスポーツ少年団に限らず、各分野においても担い手・指導者確保に苦慮している状況にある。人材バンクの汎用的な活用や可能性を探る。</p>	市長 教育長
<p>質問事項3</p> <p>農業戦略について</p> <p>(1) 農家所得向上について</p>	<p>本市の農業を持続可能な産業にしていくためには、単なる生産量の確保だけではなく、農家所得率の向上が不可欠と考える。特に、肥料や資材、燃料など外的資材への依存を抑え、経費を削減する視点が重要だと考える。現在の農業戦略において、外的資材投入の削減と所得率向上をどのように位置付けているか、今後の方向性について市の見解を伺う。また、基幹産業である農業の存続を懸けた農業従事者の確保についての考えを伺う。</p> <p>農地の集約化や農機の性能向上による農業生産の効率化を求める農業への転換が進められているが、農家にとってそれらに投資した経費が重</p>	市長

2月27日（金）

発言順番 3

堀 研二郎

議員

質問事項	質問要旨	質問の相手
	くのし掛かる農業経営になっていないか。本市における産地の特徴からみた、適正規模の経営や所得向上に向けた農業戦略を探る。	
（２）就農者確保について	担い手の確保は依然として厳しい状況にあるが、農業や食への関心が少ない訳ではないと考える。そのような中で、本市の就農情報は少なすぎると感じており、関係機関との総力で人材確保に動く必要があると考える。行政としての対応策を伺う。	

質問事項	質問要旨	質問の相手
<p>質問事項 1 市民レベルの地球温暖化対策について</p> <p>-----</p> <p>(1) ごみ減量・リサイクル推進事業の現状について</p> <p>-----</p> <p>(2) ペットボトルのリサイクルから、リデュース・リフューズへ</p>	<p>小林市の「ごみ・リサイクル白書」によると、本市のゴミのリサイクル率は 60.5%（令和元年度）で、ごみ処理において全国トップクラスの先進地となっている。しかし、地球温暖化対策を考えると、リサイクルは、いわゆる 4R の 4 番目にすぎず、地球温暖化対策のためには残りの 3R（リフューズ…断る／リデュース…減らす／リユース…再使用）への取組が不可欠である。</p> <p>市民の意識を喚起するための一つの手だてとして、「マイボトル運動」を提起できないか伺う。</p> <p>小林市の家庭ごみの排出量は、平成 12 年度をピークに毎年減少しており、平成 21 年度はピーク時に比べ半減している。一方、リサイクル品の排出量は令和元年度は平成 16 年度の約 2 倍に増えている。具体的に、リサイクル品の何がどのくらい増減しているのか、またその要因について伺う。</p> <p>ペットボトルをリサイクル品として回収することは大切だが、そもそもペットボトルの飲料を買う頻度を減らす一つの方法として、「マイボトル運動」に取り組む考えはないかを伺う。</p>	市長
<p>質問事項 2 学校の在り方について</p> <p>-----</p> <p>(1) 「小林市立学校の在り方に関する意見交換会」の総括について</p>	<p>市内 12 の小学校区単位での「小林市立学校の在り方に関する意見交換会」が終わり、令和 8 年度の 5 月頃には方針が出されると聞いている。</p> <p>これまでの意見交換会のまとめと、方針の立て方、また、方針が発表された後どのように進めていくか見通しを伺う。</p> <p>去る 1 月 27 日、総務文教委員会において、「学校の在り方に関する意見交換会」についてのまとめの資料が出された。それによると、「提言書」に「賛同しない」または「どちらとも言えない」という意見が、須木地区、紙屋地区などでは特に多かったようである。</p>	市長 教育長

質問事項	質問要旨	質問の相手
	こういった、小規模の学区の意見をどう方針に取り入れるつもりかを伺う。	
（２）今後の進め方の見通しについて	令和8年5月頃に方針を出したあと、市民への周知をどうするのか、また、方針に対する意見の集約などをどう進めるのか、その見通しを伺う。	
質問事項3 児童センターの運営について	子どもから高齢者まで、幅広い世代が利用し、健康づくりやコミュニティーの醸成に資することができる施設として、市内に2か所の児童センターが開設されている。この児童センターが使いにくいという声があるが、現在の運営の状況と改善について伺う。	市長
（１）遊戯室の環境整備について	中央児童センター・西小林児童センターともに、幼児室と図書室にはエアコンが設置されているが、一番多くの子どもたちが遊ぶ遊戯室には付いていないため、真冬や夏場は利用しづらいという声がある。利用者の要望に応じて設置する考えはないかを伺う。	
（２）開館日数について	児童センターを利用する保護者や子どもたちからは、休館日が多すぎるという声が上がっている。開館日数を削減した理由と、改善する余地はないのかを伺う。	
質問事項4 高齢者への支援策について	第3次小林市総合計画では、「いきいき」分野の中の「高齢者支援を推進します」として、「高齢者が活躍する社会づくり」を謳っている。高齢者支援の在り方について伺う。	市長
（１）高齢者が活躍する社会づくりについて	介護も必要なく認知症でもない高齢者が、「いきいき」と暮らし活躍するための手だての一つとして、補聴器購入助成制度を新設する考えはないかを伺う。	
（２）補聴器購入助成制度の広がりについて	この間、県内でも新たに美郷町や門川町が助成に乗り出し、全国的にも加齢性難聴者への補聴器購入助成制度を実施する自治体が急増している。多くの市民が望むこの施策について、どう考える	

質問事項	質問要旨	質問の相手
	かを伺う。	
質問事項5 全天候型ドームの建設計画について	<p>令和7年9月議会に追加予算として提出された「新しい地方経済・生活環境創生交付金事業費」は、JR小林駅近くの中央ふれあい広場に「全天候型ドーム」を整備するための地質調査や測量設計費として2,560万円を補正計上した。これは、後年度負担としてR8～R9年度に総事業費約6億8,000万円を見込む大事業である。この計画の今後の進め方と見通しを伺う。</p> <p>-----</p> <p>(1) 事業の目的や必要性、提案に至る前の経緯について</p> <p>-----</p> <p>(2) 来年度、再来年度の進め方について</p>	市長
質問事項6 地区体育館の整備について	<p>現在、旧小林市内には6箇所の地区体育館があるが、建物自体の老朽化のほか、施設・設備が傷んだままになっている状況が見られ、日常の使用に支障を来している現状がある。今後の整備の見通しを伺う。</p> <p>-----</p> <p>(1) 真方地区、東方地区体育館の整備について</p>	市長 教育長

質問事項	質問要旨	質問の相手
<p>質問事項 1</p> <p>ふるさと納税による企業成長を「市民の手取り所得向上」へつなげる出口戦略について</p>	<p>本市のふるさと納税は牛肉を筆頭に大きく伸び、設備投資を進める事業者も見られます。しかし、現場からは投資余力の差による事業者間の格差拡大を危惧する声や「仕事が増え給料の額面は上がったが、税・社会保険料の負担増で手取り額が変わらず楽にならない」との悲鳴が届いています。ふるさと納税による企業成長をいかにして「市民の実質的な手取り所得」の向上や地域全体の底上げにつなげるのか、具体的な出口戦略を問います。</p>	市長
<p>(1) 「自前ポータルサイト」導入による中間手数料の削減</p>	<p>令和7年9月議会で、自前ポータルサイトは構築コスト等の面から慎重な検討課題と答弁されましたが、現在も多額の中間手数料が市外へ流出し、地域内の利益を損なっています。この手数料を削減し、直接的に生産者の利益や、「従業員のさらなる賃上げ原資」に転換するため、自前サイト構築による利益率向上を提案しますが、市の見解を求めます。</p>	
<p>(2) 返礼品登録事務の迅速化と市外業者参入の現状確認</p>	<p>市内の事業者がふるさと納税に参入しようと申請しても、市の審査や登録事務に時間を要し、販売機会を逃しているとの声があります。事務の迅速化を求めると同時に、現在、本市の制度において「市外業者」の参入は可能な仕組みとなっているのか、また参入している場合の市内事業者との優先順位や取扱基準はどうなっているのか、実態を伺います。</p>	
<p>(3) 基幹産業を守る「生産者支援基金」の創設</p>	<p>本市の返礼品の主力である牛肉は、枝肉相場の変動という自力では克服困難な外的要因に左右されます。繁殖・肥育農家が安心して経営を継続し、本市の基幹産業を守り抜くため、ふるさと寄附金の一部を不測の事態に備える「生産者支援基金」として積み立てる仕組みを提案しますが、市の見解を求めます。</p>	

質問事項	質問要旨	質問の相手
(4) 過度な安売り競争を防ぐ「適正利益保護」の指針策定	ふるさと納税による経済の循環を、繁殖農家から精肉店まで全ての事業者が享受できる環境づくりが必要です。市内の事業者が過度な安売り競争で疲弊し、持続可能性を損なうことがないように、実態を把握し、地域内での適正な利益分を保護するための明確な指針(ガイドライン)の策定を求めます。	
(5) 配送負荷のない「環境価値」返礼品の開発	物流コスト増や運転手不足が深刻化する中、従来の配送型返礼品に加え、小林市の森を守る「木を植える権利」など、環境貢献型メニューを開発し、配送リスクを避けつつ高い利益を確実に地域へとどめる戦略の考えについて問います。	
質問事項2 「健幸のまちづくり」を支える足元の安全確保と命を育む教育について	市長が推進する「健幸のまちづくり」の土台は、市民が安心して「歩ける」環境です。しかし、地域の高齢者などから「道が怖くて歩けない」という声が届いています。市民の安全を守るインフラ整備と、次代を担う子どもの豊かな学びについて、市の姿勢を問います。	市長 教育長
(1) 忠霊塔付近や売子木交差点周辺における歩道・路面の迅速な改修	忠霊塔付近の生活道路や売子木交差点につながる国道・市道の歩道において、マンホールのガタつき、側溝蓋の隙間、路面の凸凹が放置され、歩行者やシルバーカー利用者の転倒リスクが高まっています。市民に歩くことを推奨している中、これらインフラの不備を放置せず、迅速な点検と改修を行う体制の整備について伺います。	
(2) 「菌ちゃん野菜づくり」による循環型食育と環境教育の展開	微生物の力を借りて生ごみを土に還す「菌ちゃん野菜づくり」は、幼児期から命の循環を学ぶ食育であり、地球温暖化防止や生ごみ減量など環境行政の側面も併せ持ちます。このような取組を次期食育・地産地消推進計画や地球温暖化対策実行計画などへ位置づけ、市民の協力を得るための工夫や意欲ある教育・保育施設などを対象としたモデル実証を公募で行うなど、具体的な普及に向け	

質問事項	質問要旨	質問の相手
	た働きかけを求めます。	
<p>質問事項3 オールスマイル商品券給付事業の事務費3,654万円を市民の「納得」と「まごころ」に変える戦略</p> <p>(1) 配送時の高齢者安否確認</p> <p>(2) 商品券発行による「地域内経済循環」の最大化</p> <p>(3) 民間事業者との連携による利便性確保と委託の検討</p>	<p>令和8年1月臨時議会で可決した、1人当たり1万円相当の商品券を給付する本事業に対し、市民からは「隣接自治体の現金給付のように、経費と手間の少ない手法にすべきだ」との厳しいお叱りを受けています。前回の配布遅延に対する不信感も根強い中、あえて多額の事務費を投じて商品券とすることと、現金以上の経済効果をどう担保するのか、市民の不満に対する見解を求めます。</p> <p>全世帯への訪問による確実な手渡しを通じて高齢者の安否確認等を行う「福祉・見守り」の価値につなげる運用上の工夫はできないか伺います。</p> <p>また、遅延を防ぎつつ、配布のプロセス自体を市民の安心につなげる考えを問います。</p> <p>現金給付ではなく「市内限定の商品券」に経費・時間・手間をかけることが、市内の小売・サービス業者にどのような経済波及効果をもたらし、地域全体の経済循環をどう強めると考えているのか、市の見解を求めます。</p> <p>移動手段を持たない高齢者が「庭先」で確実に券を使えるよう、地域を巡回する移動販売業者や車両保有事業者への委託を含めた支援体制を構築し、市民の使い勝手を拡充させる運用はできないか見解を問う。</p>	市長
<p>質問事項4 市民を主役にした持続可能な「デマンド型交通」等の再構築について</p> <p>(1) 市民ワークショップによる「納得感」のある交通網設</p>	<p>昨年度のデマンド型交通（予約型タクシー）の実証運行の結果、本格実施には至らず、移動に困窮する市民の失望は大きいと考えます。調査結果を単なる「見送り」の根拠で終わらせず、市民と共に「本当に使いやすい地域交通」を再設計するための体制を問います。</p> <p>行政主導ではなく、調査データを市民に開示し、住民・専門家・事業者が対等に話し合っ</p>	市長

3月2日(月)

発言順番 5

能勢 誠

議員

質問事項	質問要旨	質問の相手
計	マンド型交通等のルートや運行形態を設計する「ワークショップ」をモデル地区を選定し開催する考えを伺います。	
(2) 専門的知見を導入した持続可能なネットワーク構築	深刻な運転手不足を見据え、大学等の専門家の協力を得て、既存のバスやタクシーと調和し、10年後も安心して暮らせる公共交通網を構築するための検討体制の構築について伺います。	

質問事項	質問要旨	質問の相手
質問事項 1 市長の政治姿勢について	<p>コロナ禍であったが、2期目となる令和4年6月議会定例会の開会での市長の所信は『これまでに掲げた「医療・福祉・子育て支援の整備促進」「持続可能で安心安全なまちづくりの推進」「産業の育成・雇用対策の推進」及び「スポーツ・文化活動の振興」の4つの重点施策を引き続き進めていくとともに、同年3月に策定した第2次小林市総合計画後期基本計画を確実に実行し、さらなる市政発展に努める』とのことであった。2期目就任時に掲げた政策の成果について伺う。</p>	市長
(1) 市政4年間の総括について	<p>最重要施策の「健幸のまちづくりの推進」や将来的な社会保障費の抑制につながる「こばやし健幸ポイント事業」の実施に加え、令和4年3月に基本計画を策定した「健幸のまちづくり拠点施設整備事業」による、体育館機能、健康づくり機能、子育て支援機能及び避難所機能を備えた、市民の皆様がいつでも気軽に利用することができる複合型総合体育施設の整備も完成を迎える。医療費助成拡充などの子育て支援策や基幹産業である農畜産業など、本市の強みを生かした施策の展開と、若者の定住や人口減少問題、地域活性化など、今期4年間の総括について伺う。</p>	
(2) 次期市長選について	<p>次期市長選については昨年6月議会で出馬の意向を表明されている。人口減少や医療、福祉、教育、経済対策など、今後さらなる市政発展のために取り組むべき課題も山積している。特に令和9年に開催される日本のひなた宮崎国スポ・障スポの開催に向けた準備やこれに伴う施設整備、地域活性化に向けた施策など様々な取組も重要である。これまでまいてきた種を花咲かせる本市の未来について市長の見解を伺う。</p>	

質問事項	質問要旨	質問の相手
<p>質問事項2 新市施行20周年記念イベントについて</p>	<p>平成28年3月19日に旧小林市と旧須木村の合併から10年の節目を記念した「小林市新市誕生10周年記念イベント」が開催されている。イベントでは約2,000人が参加し「一つの椅子に連なって座った最多人数」でギネス世界記録に挑戦し、地元テレビ局の番組内で生中継され、県内外へ情報発信されている。記念すべき20年の節目の記念式典や市民総参加の記念事業など地域の一体感や愛着の醸成に向けた20周年イベントについて伺う。</p>	<p>市長 教育長</p>
<p>(1) 市内の児童・生徒による企画運営について</p>	<p>記念式典や市民総参加の記念事業に向けた20周年のイベントや冠事業について伺う。 また記念事業に向けた市内の児童・生徒による企画運営の実施について伺う。</p>	
<p>質問事項3 GIGAスクール構想の実現に向けた計画について</p>	<p>学習及び校務でICT機器を積極的かつ効果的に活用し、教育の質の向上や一人一人の個性に応じた学習の実現について伺う。 また、ICT機器を効果的に活用した学習活動の充実や、これからの時代を生きるための情報活用能力の向上並びに同計画に基づいた小・中学校におけるICTの活用や環境整備について今後の見解を伺う。</p>	<p>市長 教育長</p>
<p>(1) ICT活用について</p>	<p>各年度におけるICT活用目標や指導体制の強化、働き方改革(校務の効率化)への対応について伺う。 また、教員のICT活用指導力調査の結果を踏まえ、教員を対象とした研修について伺う。</p>	
<p>(2) リーディングDXスクール事業について</p>	<p>宮古島市の小中学校では「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実、校務の徹底的な効率化や対話的・協働的な職員会議・教員研修をテーマに重点的に取り組まれている。リーディングDXスクール事業は、GIGA端末の標準仕様に含まれている汎用的なソフトウェアとクラ</p>	

3月2日(月)

発言順番 6

原 勝信

議員

質問事項	質問要旨	質問の相手
	<p>ウド環境を十全に活用し、児童・生徒の情報活用能力の育成を図りつつ、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実や校務DXを行い、全国に好事例を展開することで、全国全ての学校でICTの「普段使い」による教育活動を推進するためのものである。全国の小中高等学校、約200校の取組等を参考に、本市の見解を伺う。</p>	
<p>質問事項4 地域生活支援事業について</p>	<p>事業の実施主体である市町村等が、地域の特性や利用者の状況に応じて柔軟に実施することにより、効果的・効率的な事業実施が可能である。事業利用者のニーズや利用要件、外出範囲、費用負担など、本市の現状について伺う。</p>	<p>市長</p>

質問事項	質問要旨	質問の相手
<p>質問事項 1</p> <p>市長の2期8年間の市政について</p>	<p>本市の農林畜産業の振興、地域経済活性化、健康のまちづくりを最重要施策とした複合型体育施設の整備など評価される中で、人口減少・少子高齢化に伴う「持続可能なまちづくり」など今後の課題となるが、市長の2期8年間の実績と課題及び今後の取組について伺う。</p> <p>また、須木地区のさらなる振興策について市長の見解を伺う。</p>	市長
<p>質問事項 2</p> <p>須木庁舎の現状について</p>	<p>須木庁舎は、昭和56年に旧須木村役場として総事業費6億1千万円で建設され、平成18年の旧小林市との合併以降は、須木総合支所として位置づけられている。須木庁舎の現状について次のとおり伺う。</p> <p>-----</p> <p>(1)「小林市須木庁舎」整備基本方針について</p> <p>「小林市須木庁舎」整備基本方針について、令和7年12月に議会に説明があったが、改めて策定までの経緯やこれまでの住民への周知について伺います。</p> <p>-----</p> <p>(2) 須木庁舎の維持管理について</p> <p>須木庁舎は建設から44年が経過しており老朽化が進んでいるが、今後の維持管理について伺う。</p>	市長
<p>質問事項 3</p> <p>須木地区における農村型地域運営組織(農村RMO)形成推進事業について</p>	<p>令和7年3月に農村型地域運営組織(須木農村RMO)が立ち上がり、形成推進事業費補助金535万円が計上されている。須木地区の地域資源の保全、生活環境、農業生産活動、集落維持、社会福祉など各関係組織団体が取り組んでいる本年度の主な事業内容を伺う。また、本年度を含む3年間の事業内容を伺う。</p>	市長

質問事項	質問要旨	質問の相手
<p>質問事項1 在宅障がい者・介護者支援 について</p>	<p>特別障害者手当は、精神又は身体に著しく重度の障がいを有し、日常生活において常時特別の介護を必要とする障がい者に対して支給されているが、本市における状況について問う。</p> <p>また、在宅介護に欠かせない訪問看護や訪問介護の状況について伺う。</p>	市長
<p>(1) 特別障害者手当の支給 状況と周知について</p>	<p>本市における特別障害者手当の支給状況を伺う。また、制度を知らないがために申請されていない方々についての対応と制度の周知について伺う。</p>	
<p>(2) 訪問看護や訪問介護ヘルパーの状況について</p>	<p>在宅生活に欠かせない訪問看護や訪問介護ヘルパーの状況を伺う。</p>	

質問事項	質問要旨	質問の相手
質問事項 1 小林市教育みらい検討委員会の提言書を受けて	現在、市において学校の在り方について、どの段階まで検討が進んでいるか伺います。	市長 教育長
(1) 学校統廃合後の校舎利活用について	統廃合後の校舎利用について、どのような方針での協議がなされているか。空き校舎は放置すれば、維持管理のかかる負債になりますが、活用次第では、地域の新たな価値を生む「資産」となります。空き校舎利活用の基本方針が協議されているか伺います。 また、他自治体の事例調査などを行われているか伺います。	
(2) 部活動の存続・移行に関する方針について	保護者から特に多いのが部活動の存続に関する不安の声です。 ・希望する部活動に入れるか。 ・通学時間が長くなると、参加しづらくなるのでは。 ・指導者の確保や、送迎はどうなるか。 統廃合を検討する際、部活動の存続、移行についてどのような基準や方針で判断するのか伺います。	
質問事項 2 映画「木の上の軍隊」の上映について	小林市出身の日本兵をモデルに制作された映画「木の上の軍隊」が、市民の要望も多い中、小林市でも上映されました。昼夜2回に分けて開催され、いずれも満席になったことは、市民の関心の高さを示すものであり、事業として一定の成果があったものと受け止めております。映画上映の内容等について伺います。	市長 教育長
(1) 事業費について	総事業費（上映料、会場費、広報費、人件費など）を伺います。	
(2) 来場者数と属性の把握について	延べ来場者数、来場者の年代別、市内・市外の別などの内訳を伺います。	
(3) 費用対効果について	今回の上映によって、どのような効果があったと評価しているか伺います。	

質問事項	質問要旨	質問の相手
(4) 今後の事業展開について	今回の上映会をきっかけに、今後も戦争体験の継承や平和学習に関する効果的な事業として映像作品の上映や講演会などを継続する考えはないか、また、改善点をどのように考えるか伺います。	
(5) イベントの成果の定義について	市のイベントは参加者数が多いほど成功とされがちですが、実際には学びや交流、地域活性化、市民満足度の向上など多面的な成果があります。今回の上映結果を踏まえ、市としてのイベントの成果をどのように定義し、成果の大きいものを優先的に今後の施策に結びつけるのか伺います。	
質問事項3 人口減少対策について	本市においても少子高齢化が急速に進み、人口減少が深刻な課題となっています。出生数の減少、若年層の流出、高齢化の進展により地域の活力が失われつつあります。そこで、人口減少対策をより強力に推進するための部局横断的なプロジェクトチームの設置について市の考えを伺います。	市長
(1) 人口減少の現状認識について	本市の人口減少と少子高齢化の現状について、市としてどのように分析されているか伺います。また、人口減少の主な要因をどのように把握し、これまで取り組んできた人口減少対策の成果と現時点での課題をどのように認識しているか伺います。	
(2) 人口減少対策プロジェクトチームの設置について	人口減少は待ったなしの課題であり、そのような中で切実な担い手不足の現状があります。このままでは、基幹産業の衰退なども危ぶまれ、従来の取組を継続するだけでなく新たな対策が必要です。また人口減少は、子育て支援、教育、雇用、移住、地域経済など多岐にわたる分野に密接に関わる課題です。しかし、縦割りの組織体制では、十分な連携が取れず、スピード感を持った対応が難しい面もあると感じています。他自治体では、	

質問事項	質問要旨	質問の相手
	人口減少対策に特化したプロジェクトチームや戦略室を設置し、成果を上げている例もあります。市長の強いリーダーシップのもと、守りの行政から、攻めの行政へ転換するため、部局横断のプロジェクトチームを設置できないか、市の考えを伺います。	
質問事項4 農業特化型地域おこし協力隊員の募集について	<p>基幹産業である農業は、農業従事者の高齢化、後継者不足により、耕作放棄地の増加や生産量の減少が懸念されています。このことについて、以下のとおり伺います。</p> <p>-----</p> <p>(1) 農業の担い手不足に関する現状認識について</p> <p>農業の担い手不足をどのように認識しているか伺います。</p> <p>-----</p> <p>(2) 農業分野における地域おこし協力隊員の可能性について</p> <p>担い手不足は待ったなしの課題であり、協力隊員制度の活用は、即効性のある対策の一つです。全国では、地域おこし協力隊員を農業分野に特化して受け入れ、新規就農者の育成、農産物のブランド化、6次産業化の推進、ICT農業の導入支援などに成功している自治体が多数あります。</p> <p>本市においても、農業に特化した協力隊員を受け入れることで、担い手不足や農業振興に寄与できると考えますが、農業特化型の地域おこし協力隊員を積極的に募集する方針を検討されないか、市の見解を伺います。</p> <p>-----</p> <p>(3) 受入態勢の整備について</p> <p>協力隊員が農業に取り組むためには、研修先農家の確保、住居の確保、就農後の支援制度、地域とのマッチングなどの整備が必要と考えますが、市の見解を伺います。</p>	市長

質問事項	質問要旨	質問の相手
<p>質問事項1 地域猫活動の持続可能な体制整備と全域展開について</p>	<p>本市では、殺処分ゼロを目指す「地域猫活動」の推進により、避妊・去勢手術の支援窓口が設置されるなど、着実な成果を上げています。一方で、現場を支えるボランティア団体は、保護シェルターや手術拠点の運営資金に苦慮しており、活動の継続には民間の努力だけでは限界があります。また、一部の地域にとどまらず、市内全域の行政区でこの活動を広げたいという現場の声を受け、行政として一歩踏み込んだ支援の在り方を伺います。</p>	市長
<p>(1) 民間シェルター及び手術拠点の運営支援について</p>	<p>現在、ボランティア団体が私費を投じて運営している保護シェルターや手術拠点について、その活動実態を市はどのように把握されているでしょうか。活動を安定的に継続させるための公的な財政支援や、寄附文化の醸成に向けた市の協力について伺います。</p>	
<p>(2) 行政区単位での地域猫活動の推進と周知について</p>	<p>現在、一部の地区で意欲的な活動が見られますが、これを市全体へ広げるためには、各行政区(区長会等)への働きかけが重要です。ボランティア団体と各行政区が連携し、地域一体となった活動を推進するための機会創出について、市の考えを伺います。</p>	
<p>質問事項2 インクルーシブ社会の実現に向けた障がい者への伴走型支援と公共施設の改善について</p>	<p>障がいを抱えて初めて気づかされるのは、公的な支援だけでなく、民間事業者のサポートなど、知っているか否かで生活の質が大きく変わる「情報の格差」があることです。また、公共施設においても、障がいを抱える当事者の視点から見れば利用しづらい構造が依然として残っています。誰もが取り残されず、安心して社会参画できるインクルーシブなまちづくりに向け、情報の届け方と施設整備の両面から市の考えを伺います。</p>	市長 教育長

質問事項	質問要旨	質問の相手
(1) 障がい者への情報提供と相談体制の充実について	公的サービスのみならず、交通機関や民間事業者が提供するサポートなど、生活を豊かにする多様な情報を、必要なタイミングで漏れなく届ける工夫が必要です。現在の情報提供の在り方を点検し、より相談者に寄り添った伴走型の周知・相談の仕組みについて伺います。	
(2) 公共施設におけるバリアフリー化と利用環境の改善について	小林市文化会館をはじめ、市が管理する公共施設の中には、足の不自由な方にとって利用しづらい構造の場所が見受けられます。既存施設の改修や運用上の工夫により、障がいのある方も等しく文化活動や行政サービスを享受できるよう、バリアフリーな施設整備を推進する考えを伺います。	
(3) 伴走型支援の強化による「自立と共生」の推進について	障がい者が社会のあらゆる場面で活動できるよう、専門職や地域が連携し、個別のニーズに応じた継続的な支援を行うことが重要です。誰もが等しく、主体的に社会に関われるまちづくりに向けた市長の決意を伺います。	

質問事項	質問要旨	質問の相手
質問事項 1 市長の政治姿勢について	2期目の総括と次期市長選への抱負について伺う。	市長
(1) 最重要施策である健幸のまちづくりの取組について	市民の健康意識の変化についてどう感じているか伺う。 また、市民の健康への意識改善をどのように分析しているか伺う。	
(2) 財政健全化に取り組んだ成果について	起債残高を減らし基金を増やしたことに対する評価について伺う。 また、将来負担と次世代へ引き継ぐ未来像を伺う。	
質問事項 2 小林市地球温暖化対策実行計画について(区域施策編)	重点的に取り組む施策について伺う。 小林市ゼロカーボンシティ宣言に基づく計画の取組状況と効果について伺う。 また、再生可能エネルギー推進の考えについて伺う。特に小水力発電推進についての考え方を伺う。	市長
質問事項 3 空き家対策について	今後も増加傾向にある空き家の現状と課題について伺う。 また、空き家のデータを分析し適切な管理体制を整える施策について伺う。	市長
(1) 小林市空家等対策計画について	計画に基づいた施策の取組状況と空き家になる前の単身高齢者世帯の把握などの取組について伺う。	
質問事項 4 地方創生の取組について	移住施策を推進しているが、関係人口をさらに増やす取組について伺う。 国では、居住地以外の地域に継続的に関わる人を「ふるさと住民」として登録する「ふるさと住民登録制度」の創設が検討されており、関係人口の増加や空き家の利活用にもつながるとされているが、制度が創設された場合の考えについて伺う。	市長